

ごあいさつ

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
理事長 石野富志三郎

連盟は昨年5月、西の都である福岡にて創立70年を迎えました。新たな10年目を踏み出すことになる第66回全国ろうあ者大会を、水の都大阪で全国から4,000名を超える参加者を迎え開催できる喜びを、ここに集う皆さんと分かち合いたいと思います。

かつて、1964年の東京パラリンピックは障害者に対する意識を変えました。そして2020年に予定している東京パラリンピックは、街や心のバリアフリーを進めようとしています。障害者の国際スポーツ大会を日本で行うことは、わが国の共生社会への動きを加速させる大きな転機となります。デフリンピック日本招致に向けた私たちのこれからの取り組みは、わが国の言語とコミュニケーションという社会生活における根幹の考えを大きく変えようとしています。

手話言語は音声日本語と対等なひとつの言語です。私たちは、聞こえないために聞こえる人とのコミュニケーションが通じない辛さを、同じ仲間と出会い手話で語り合える喜びを、誰よりも実感しています。手話言語を取り巻く環境は、時代や技術革新、社会環境と共に変化をしていますが、手話が私たちろう者が自らの道を切り拓いてきた「生きる力」そのものであり、「命」そのものだという点は、いつの時代においても決して変わることはありません。

人間が言語を身につけることは、社会生活を営む一員としての存在が認められることであり、命を育むことと同じです。人の命が等しく尊いものであるように、私たち一人ひとりが使う手話はどれも「言語」であり、等しく尊いものです。互いの違いを認め、互いを受け容れること。その寛容さと理念を粘り強く国民に啓発し、私たちの悲願でもある「手話言語法」が一日も早く制定されるよう、全国の仲間と共に一丸となってこれからも頑張っていきたいと思います。

本大会のテーマ「笑（わろ）てんか 楽しんでや 大阪で手話の祭典」が示す通り、喜びや楽しみを手話で分かち合いながら、ろうあ運動と手話言語の無限の可能性を信じ、これからも様々な取り組みを皆様と一緒に進めていきましょう。

最後になりますが、本大会開催にご努力いただきました実行委員会の皆さま、公私ともお忙しいところをご臨席くださいました大阪府および大阪市をはじめご来賓の皆さまに厚くお礼を申し上げ、開会の挨拶といたします。